

令和元年 7 月 25 日

政友クラブ研修報告書

研修報告者 鈴木 篤

鮫田 光一

日程 令和元年7月25日

研修先 長野県飯山市 株式会社シーピーアール

「廃プラスチックリサイクル事業について」

参加者 政友クラブ2名 鈴木篤 鮫田 光一

視察概要

1. 研修日程7月25日

2. 研修場所 株式会社シーピーアール CPR 飯山工場

3. 会社概要

設立:昭和43年6月

業務内容:アウトソーシング事業、プラスチックリサイクル事業、古物商、

産業廃棄物収集運搬業

4. 研修内容

研修時間 13時～15時

視察項目 「廃プラスチックリサイクル事業について」

対応者 (株)CPR 飯山工場 工場長 森山卓也様

5. 進行

①政友クラブ 鈴木篤議員 挨拶

②工場長 森山卓也様 挨拶

6. 説明内容

《リサイクルの現状》

CPR 飯山工場では、甲府峡東クリーンセンターから回収したプラスチック製容器包装類をリサイクルしてプラスチック製パレット（材料リサイクル製品）を製造販売している。

《リサイクルの行程》

甲府市から引き渡されたプラスチック製容器包装類は材料リサイクルとケミカルリサイクルの用途別に更に光学自動選別機や比重分離機で再分別し、PP（注1）と PE（注2）をプラスチック製パレットに加工し材料リサイクル商品として販売している。また、分別された PA（注3）・PS（注4）・PET（注5）・PVC（注6）は、ケミカルリサイクル製品（コークス炉化学原料化・ガス化）の原料として再搬出している。なお、分別される材料リサイクルとケミカルリサイクルの比率は、約50対50であることから、甲府市から引き渡されたプラスチック製容器包装類の約50%が CPR 飯山工場で、プラスチックパレットとしてリサイクルされていることとなる。

《プラスチックパレットの需要》

プラスチックパレットの価格が安くなったため市場は木製品からプラス

チック製品が主流になりつつある。CPR グループ企業ではプラスチックパレットを年間200万枚製造している。価格は流通しているパレットの約半額であるため、需要は多くパレット製造部門は週6日24時間体制で日量1,300枚のパレットを製造している。

《製造に関する課題》

他のプラスチック製品から PP と PE を分別するため水槽を利用した比重分離機を使用している。この工程では分別と同時に汚れたプラスチックの洗浄効果も得られる一方で、この水の処理も必要となるため、施設内に污水处理プラントを設け水の再利用をすることで、プラスチック製容器包装の再商品化に伴う環境負荷を軽減している。

7. 考察

日本の一人当たりの使い捨てプラスチックごみの発生量は世界2位、一人当たり年間32kg が排出されている。このような背景から容器包装リサイクル法が推進され、甲府市においてもプラスチック製包装容器の分別回収が始まった。近年、市町村から再生利用に引き渡されるプラスチック量は全国平均で、年間一人当たり約7kg と推移しているが甲府市の引渡量(回収量)は年間一人当たり約3.5kg であり、リサイクル回収率は全国平均の50%程度にとどまっているため、更なる啓発活動が必要と考えている。



◇注釈

(注 1)ポリプロピレン (注2)ポリエチレン (注3)ポリアミド

(注4)ポリスチレン (注5)ポリエチレンテレフタレート

(注6)ポリ塩化ビニル

8. 工場視察



◆ 市町村から回収されたプラゴミ(一塊約 300kg)。



◆ ベルトコンベアで移動されます。



◆ 手作業で分別



◆ PP と PE を光学自動選別機で分別（第一工程）



◆ PP・PE 以外のプラスチックは、ケミカルリサイクル製品用として搬出



◆ 第一工程で分別された PP と PE



◆ PP と PE の中には、まだ他のプラスチックが混じっている



◆ 裁断後に比重分離機(水槽)で分別と洗浄をします(第二行程)



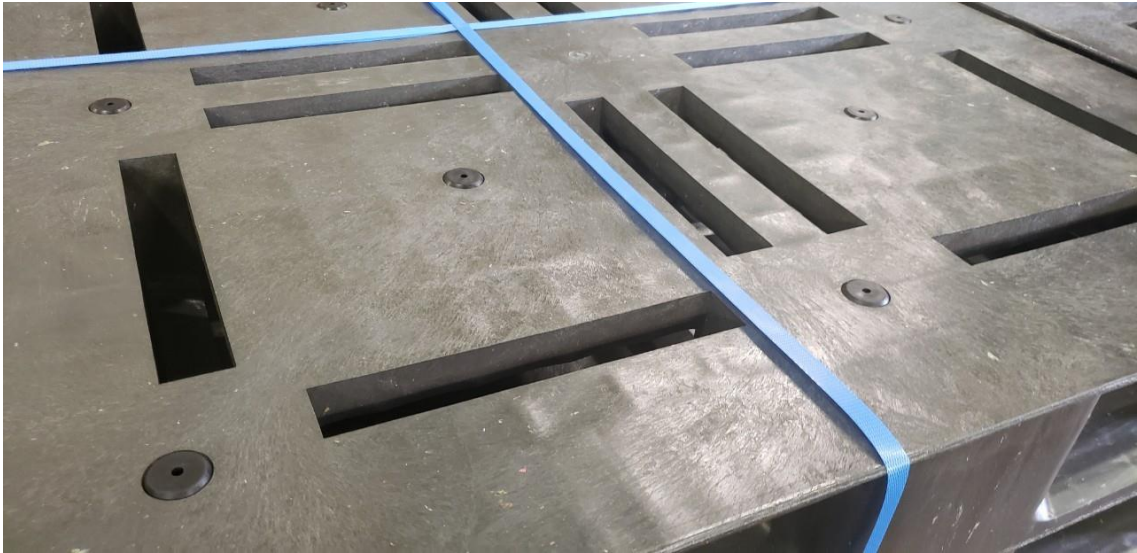
◆ ペレット状になった PP と PE



◆ 粒状行程



◆ パレットにするための溶融行程(プラスチックの溶けた匂いがきつい)



◆ 丸いすべり止めを付けて完成(出来たばかりは温かい)



◆ 日曜日以外は24時間稼働



◆ パレット用の型枠



◆ 工場外景

8. 鮫田光一議員 お礼のことば

以 上